

# イオンモールいわき小名浜

AEON MALL IwakiOnahama

No. 18-016-2018作成

新築  
物販/飲食/集会所

発注者	イオンモール株式会社	カテゴリー	
設計・監理	西松建設㈱北日本支社一級建築士事務所 株式会社一級建築士事務所 高砂塾学工業㈱一級建築士事務所	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術
施工	西松建設㈱北日本支社	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
		E. リニューアル	F. 長寿命化
		G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性
		K. その他	

## 復興のシンボルと防災モール



南西側外観

### 事業計画・設計主旨

イオンモールいわき小名浜は映画「フラガール」でも知られている福島県いわき市に位置し、東日本大震災時の津波被害を経験した小名浜港背後地震復興土地区画整理事業地内に計画された福島県内最大規模のショッピングモールである。

いわき市には、スパリゾートハワイアンズをはじめとした県内有数の観光施設を有しており、計画地周辺も小名浜港やアクアマリンパークといった観光客が足を運ぶ好立地となっている。

イオンモールとして福島県に初出店することもあり、地域の新たなランドマークとなる施設づくりを目指した。また、東日本大震災で大きな爪跡を残した地域であることから賑わいのある都市拠点を目指しつつ、防災拠点機能を有した「復興のシンボル」としての役割も担った施設づくりが求められた。



北側俯瞰

### 建物データ

所在地	福島県いわき市
竣工年	2018年
敷地面積	39,357㎡
延床面積	93,292㎡
構造	S造
階数	地上5階

### 施設計画

東日本大震災時、小名浜港は津波に襲われ沿岸にあった観光物産センターや水族館さらには、内陸の市街地にまで広く浸水した。そのため施設計画に当たっては地震や津波の被害を最小限に抑えるほか、有事の際には営業時間内・外関係なく周辺住民や観光客を館内へ安全に避難させるため、行政が設置したペDESTリアンデッキと2階床レベルで接続し一時避難ビルとしての機能を有する施設としている。

最大の特徴は、1階の総ピロティ駐車場である。通常は、客の利便性やアクセスのしやすさ、売上の見込める売場を1階に設けることをセオリーとするが、本施設は想定される最大津波高以上に2階の床レベルを設定し売場を2階～4階に配した。本施設の重要設備である特高受変電設備や非常用発電機および飲料水利用もできる受水槽を2階床レベル以上に配置することで有事の際、早期に建屋機能を復旧可能とし本来の姿であるお店としての機能を保持できる施設としている。また、停電時に備え非常用発電機からの電源供給により照明・空調・給水・携帯電話充電用コンセント等を利用できる一時的な避難を想定したスペースを設け安全に過ごせる空間も用意している。これらの施設計画により実用的で強固な防災モールとした。



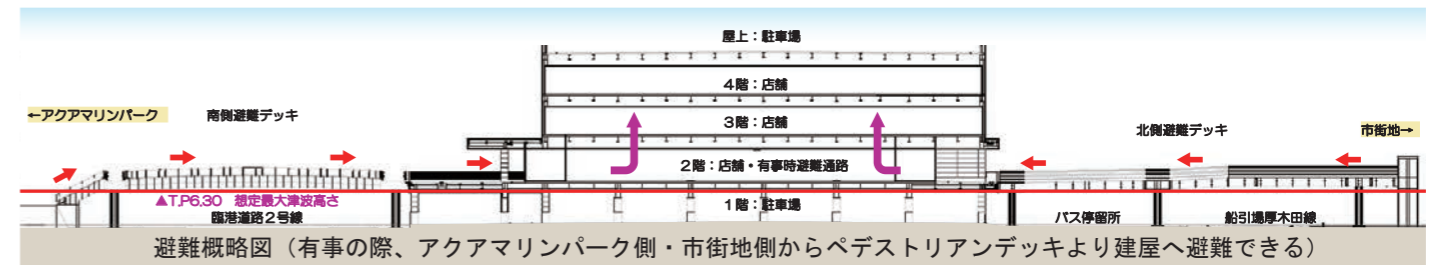
アクアマリンパークとの連結通路（南側ペDESTリアンデッキ）



2階南側エントランス夜景



南北間建屋内通路



重要設備のBCP対応

北西側スロープ下部に設置

- ・特高受変電設備（3階）
- ・受水槽（2階）
- ・冷ケース室外機（2階）
- ・マンホールトイレ（1階）

屋上駐車場に設置

- ・非常用発電機

生物環境の保全と創出

「イオンふるさとの森」の手法による周辺住民参加の植樹祭による外構緑化。計画地周辺の寺社敷地等に群生している樹種の植生調査を行い選定。

周辺環境への配慮

イオンホール  
通常時は、多目的に利用できるスペースを一時避難場所として使用  
[停電時対応設備]  
・照明・空調・給水  
・携帯電話充電コンセント

まちなみ・景観への配慮

区画整理前の当該地は福島臨海鉄道小名浜駅の跡地であった歴史から当時使用されていた車輪やレール、信号機をシンボル化したポケットパークを敷地内に設け地域の記憶や周辺施設との繋がりを継承。

設計担当者  
統括：下村宏/建築：森孝彦、大森秀一/構造：川合健康、伊藤達也、設備/道下和明、坂上雅美  
商環境デザイン/本田洋介、内田卓

### 主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q2 . 2. 耐用性・信頼性（重要設備のBCP対応）
- Q3 . 1. 生物環境の保全と創出（「イオンふるさとの森」の手法による外構緑化および植生調査による樹種樹木の選定）
- Q3 . 2. まちなみ・景観への配慮（駅舎跡地のアイテム利用した外構計画による歴史性の継承）
- Q3 . 3. 地域性・アメニティへの配慮（通常営業時・有事時を想定した市街地とアクアマリンパークを連結する建屋内通路）
- LR1. 3. 設備システムの高効率化（全照明LED化、地域冷暖房）
- LR3. 3. 周辺環境への配慮（海に近接した立地の津波対策）